

EWC Rd.1 Le Mans 24 hours



4 / 15 - 20

予選：11位 (SST 2位)

※ライダー2名の平均で決定

大久保 光 1:37.651

渡辺 一樹 1:36.659

伊藤 元治 1:38.897

奥田 教介 1:38.949

決勝：12位 (SST 4位)

※チーム初完走



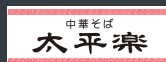
私の今シーズンの開幕戦は、EWC世界耐久ロードレース選手権第1戦のル・マン24時間耐久レースとなりました。昨年もチームエトワールの一員として同大会に参戦しており、今回が2回目のル・マン参戦となります。

レースに先立ち、ル・マン公式テストが2日間にわたって行われました。例年、この時期のル・マンは通り雨が多く、天候に悩まされることが少なくありませんが、今年は珍しく好天が続き、安定したコンディションでテストを進めることができました。EWCでは各チーム1台体制での走行となるため、ライダーは順番に限られた時間を走行します。初日はマシントラブルが続き、テストプラン通りに進めることができず、私自身の走行はわ

ずか10周程度にとどまりました。第4ライダーという立場上、走行機会が限られることは理解していましたが、それでも「もう少し走りたい」という気持ちは正直なところでした。その一方で、限られた時間でいかにペースアップするかを常に考え、イメージトレーニングやデータ確認を重ねました。走行終了後にはピットワーク練習も積極的に行い、ライダーだけでなくメカニック、スタッフを含めたチーム全体の総合力向上に向けて取り組みました。昨年の課題であった電光サインボードの視認性も改善されており、細かな部分ではありますが、チームの進化を感じる場面でもありました。

テスト2日目も快晴の下で進行しました。午前中は主に一樹選手と光選手が

セッティングを煮詰め、データ分析の合間を縫って元治選手と私が周回を重ねました。午後にはロングランテストが行われ、長い待ち時間を活用してコースサイドから走行を見学することもできました。最終セッションでは赤旗が多く、予定していた走行が十分に行えなかったものの、2日間で約30周を走行し、走るたびにタイムを更新できていたことはポジティブな要素でした。多くは乗れませんが、チームとしては非常に有意義



EWC Rd.1 Le Mans 24 hours



なデータを収集できたテストだったと感じています。

公式テストを終え、レースウィークに突入しました。ピット設営やヤグラが次々と完成していく様子を見ると、いよいよレースが始まるという実感が湧いてきました。ライダーはキャンパー泊となり、普段とは異なる生活環境でのレースウィークが始まりました。

フリー走行が行われた火曜日は、朝まで降っていた雨の影響でウェットコンディションからスタートしました。刻々と変化する路面状況の中、ライダー間で役割分担をしながら走行を重ね、私はインターミディエイトタイヤのフィーリング確認を担当しました。午後のドライセッションでは20周のロングランを行いました。非常に風が強く、特に右コーナーでは内側からの突風に煽られ、バイクが思うように曲がらず苦戦しました。それでも終盤には風が弱まり、良い感触を得てセッションを終えることができました。



水曜日は車検とファンサービスが行われました。装備品や車両、給油器具などのチェックを無事に通過し、その後はル・マン市内でのファンミーティングイベントに参加しました。サーキットからジャコバン広場までの市街地をチーム代表ライダーの光選手が走行。ジャコバン広場では他のライダーも集合し、多くのファンに迎えられました。サインを求められる場面もあり、改めてこのレースの規模と注目度を実感しました。



予選では、チームとして戦略的にタイヤを配分し、光選手と一樹選手が新品タイヤでタイムアタックをし、元治選手と私は中古タイヤでアベレージタイムの向上を目指しました。一樹選手が転倒し、転倒車両の確認走行を含めた予選1となりましたが、昨年の自己ベストを更新する1分39秒5を記録。翌日に行われた2回目の予選ではさらに1分38秒9までタイムを短縮することができました。4人全員が39秒を切るタイムを記録できたことは、決勝に向けて大きな自信となりました。

決勝レースは、雨とドライが何度も入れ替わる非常に過酷な展開となりました。レース全体で200回を超える転倒が記録され、チームエトワール内でも複数回の転倒がありましたが、その都度メカニックの迅速な作業によりレースに復帰することができました。私は4人の中で唯一転倒することなく走り切ることができましたが、ハイサイドの危険と常に隣り合わせの状態、精神的な消耗は非常に大きいものでした。

序盤のトラブルで順位を落としながらも、夜間を乗り越え、明け方にはクラス4位争いまで挽回しました。終盤にも降雨がありましたが、チーム全体で冷静に対応し、無事にチェッカーを受けることができました。チームとして初となる24時間レース完走に貢献できたことを、心から誇りに思っています。

